

令和4年度

学校関係者評価報告書

令和5年3月15日現在

那覇市医師会那覇看護専門学校

学校運営委員会・評価委員会提出資料

目 次

1 学校の理念、教育目標	1	基準7 学生の募集と受入れ.....	1 1
2 本年度の重点目標と達成計画	2	基準8 財 務	1 2
3 評価項目別取組状況	4	基準9 法令等の遵守.....	1 3
基準1 教育理念・目的・育成人材像	5	基準10 社会貢献・地域貢献.....	1 4
基準2 学校運営.....	6		
基準3 教育活動.....	7		
基準4 学修成果.....	8		
基準5 学生支援.....	9		
基準6 教育環境.....	1 0	4 令和4年度重点目標達成についての自己評価	1 6

1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
<p data-bbox="566 427 696 459" style="text-align: center;">教育理念</p> <p data-bbox="152 480 1077 651">本校は、人間への深い関心を示す豊かな感性と幅広い教養で、生命の尊厳と人権の尊重ができる倫理観を育み、人々の健康生活を支援し、社会に貢献できる自律した看護師を育成する。その教育は、学習者の主体性を大切に学習者と教師が共に学問を探究し築かれる。</p> <p data-bbox="539 831 689 863" style="text-align: center;">教育目的</p> <p data-bbox="152 954 1077 1034">本校は、看護師に必要な知識、技術、態度を養い、人間力、判断力、基礎的な看護実践能力を育み、地域医療に貢献できる人材を育成する。</p>	<p data-bbox="1525 440 1675 472" style="text-align: center;">教育目標</p> <ol data-bbox="1106 563 2085 1161" style="list-style-type: none">1. 人間の生命を尊び、一人ひとりの権利を守る倫理的な行動をとることができる。2. 他者とのより良い人間関係を築くことができる。3. あらゆる発達段階、あらゆる人々の健康状態に応じた状況や現象に気づくことができる。4. 科学的根拠に基づいた安全・安楽・自立に向けた看護が実践できる基礎的能力を身につける。5. 看護の役割を理解し、保健・医療・福祉における多職種と連携・協働する基礎的能力を身につける。6. 看護師としての自覚と責任を持ち、自己を振り返り生涯にわたり自己研鑽し続ける姿勢を身につける。7. 看護師としての役割を認識し、地域における保健・医療・福祉の発展について考える基礎的能力を身につける。

2 本年度（令和4年度）の重点目標と達成計画

令和4年度重点目標	達成計画・取組方法
1 安定した学校運営 2 教育課程の円滑な運営 3 教職員の資質の向上 4 教育環境の整備 5 学生支援の強化 6 入学生・卒業生への支援 7 広報活動 8 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換 9 後援会及び同窓会活動の支援	<p>(1) 安定した学校経営</p> <p>① 教育の目的・目標達成に向けて組織体制・財政基盤の安定を図る。 ② 均衡のとれた財政管理に取り組み、支出についても適切な節減に努める。 ③ 自己点検・自己評価を実施し事業の成果状況と課題を明らかにし、更なる運営の安定化をめざし、自己点検・自己評価を継続的に実施し本校の特色ある教育活動及び教育全般等の結果については、ホームページ等で情報を発信していく。</p> <p>(2) 教育課程の円滑な運営</p> <p>① 学外講師、専任教員ならびに臨地実習施設の確保・定着に努める。 ② 教育実践においては、教育目的・目標の達成をめざして、ICTの活用や外部機関との連携で学習環境を整え、生命の尊厳を基盤に看護師に必要な基礎的知識、技術、態度を培えるよう創意工夫した取り組みを行う。 ③ 各領域間の連携を密にし、将来を担う看護師に求められる能力を育成する。 ④ 新カリキュラムの実施及び現行カリキュラムの同時進行に向けて取り組む。</p> <p>(3) 教職員の資質の向上</p> <p>① 教職員のキャリア開発を支援し資質向上を図る。 ② 各領域間の連携を検討する機会となる授業参観計画を立案し、取り組んでいく。 ③ キャリアラダーを用いた目標管理に基づく評価面接を実施する。 ④ 県内外で行われる研修会や教育研究学会等へはオンラインによる参加も推奨・支援していく。 ⑤ 新カリキュラムに伴う新たな実習施設等へ教員の事前研修を計画・実施する。 ⑥ 持続可能な開発目標（SDGs）について、研修を行う。</p> <p>(4) 教育環境の整備</p> <p>① 新カリキュラム施行の学生からICT教育環境の下、デジタルテキスト導入に伴う授業やオンライン授業等がトラブルなく進められるよう学生の主体的な学習活動を支援していく。 ② 建物等の自主点検を定期的に行い破損防止、事故防止、火災防止等の強化を図り、保全管理に努める。 ③ 敷地内周辺の花壇、ロビー等の美化に努める、学生の情緒教育を促進する。</p>

令和4年度重点目標	達成計画・取組方法
	<p>(5) 学生支援の強化</p> <p>① 看護師としての基礎的能力の習得、学生的心身の健康・学習活動・経済的支援に努める</p> <p>② 社会人・組織人としての基礎的能力、就職・進学等、看護師として専門性の追求や絶えず学び続ける力、多様性や創造性を身につけるようにキャリア発達を支援する。</p> <p>③ コロナ禍における家庭の経済的負担に対する対応や奨学金、修学資金の相談や貸与支援、心の相談・学業相談、就職及び進路相談等に関して、相談しやすい環境や相談体制を整える。</p> <p>④ 学生の生活・学習状況の変化をキャッチし、早期から保護者・カウンセラーと連携し、学業継続ができるよう心のケア（メンタルヘルスケア）を配慮し支援する。</p> <p>⑤ 国家試験対策として、3年間の支援計画の下、国家試験合格100%をめざす。</p> <p>(6) 入学生・卒業生への支援</p> <p>① 推薦入学者を対象に行われるプレスクールは、開催方法を工夫し、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて実施する。</p> <p>② 就職先にスムーズに適応し、離職することなく仕事を継続できるよう卒業後5ヶ月と1年目に里帰りを実施する。新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、方法を工夫し取り組む。</p> <p>③ 就職先との連携、教育へのフィードバックができるよう就職先や実習施設との連携等に努める。</p> <p>(7) 広報活動</p> <p>① 日頃の学校生活をホームページやブログ及び那覇看便りの発行・充実をめざし、学校の魅力を発信していく。</p> <p>② 学校説明会・学校祭・オープンキャンパス等の開催については新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、開催方法を工夫し学校生活を紹介できるよう取り組んでいく。</p> <p>③ 学校独自の職業ガイダンスの開催や進路説明会を行う。</p> <p>(8) 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換</p> <p>① 予測不能な状況において地域活動に積極的に学生ボランティアとして参加することは困難であるが、地域の状況を確認し環境が整えられた場合には支援をしていく</p> <p>② 地域の児童・生徒の学校見学会、職場体験を受け入れ看護職を理解し将来の看護師を目指すきっかけになるように努める。</p> <p>③ 市町村や他機関等から講師派遣依頼等があれば派遣を行い、地域や他機関との交流を推進していく。</p> <p>④ 日本看護学校協議会、沖縄県看護学校教育協議会との情報交換を進め、他の看護関連機関との連携に図る。</p> <p>(9) 後援会及び同窓会活動の支援</p> <p>① 後援会及び同窓会がさらに活発に活動できるよう事務的支援を行う。</p>

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、従来の教育理念として「看護職に必要な人間への深い関心を示す豊かな感性を持った看護実践者を育成する」と明文化していたが、新カリキュラムにむけて教育評価を行い、その結果、新教育理念を『自律した看護師』の育成に修正し看護師養成であることを明確化することができた。『自律した看護師』を育成するために、学校の運営方針について、『那覇看護専門学校事業計画』に明文化した。年度初めに重点目標・事業計画を提示し教職員で周知している。前期には中間評価を行い進捗状況の確認と後期に向けての取り組みの見直し及び確認を行っている。</p> <p>2022年（令和4年度）に新カリキュラム開始に向け全教職員が改正の趣旨を理解し、社会のニーズに即した新カリキュラム運営に取り組む。</p> <p>教育理念を実現するために、教育目的・目標を基盤に、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを明確化し、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の領域ごとに履修要綱（シラバス）に掲げ教育計画を立案・明確化した。</p> <p>新たな教育理念を学生・保護者、関連施設、外来講師等へ浸透させるために、説明会の開催や教育理念を理解しやすいようロゴマークを修正し、周知の工夫を行っていく。今後も後援会や学校便り等にて保護者への周知を図る工夫を行っていく。</p>	<p>学生は「自律した看護師」をめざし主体的に学べるよう、協同学習技法やプロジェクト学習を取り入れ、アクティブラーニングを教育活動として展開していく。</p>	<p>入学前授業として、プレスクールを例年は4回シリーズで実施していたが、実施内容や方法の評価を踏まえ、回数を2回として実施した。</p> <p>実習施設と連携協力の下、在学中の支援として行っているティーチングアシスタント（TA）による技術教育は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策により当初計画より回数減で行なった。</p> <p>学年を超えた交流や学びの共有する機会については会場を分ける、人数制限を設ける等、感染防止策を徹底してできる範囲で開催することができた。</p> <p>コロナに罹患した学生もZOOMを利用し対面と遠隔のハイブリッドで授業を展開した。</p> <p>新カリキュラム導入と並行し電子書籍を活用しICT化を進めた。</p>
<p>学校関係者評価委員の意見</p>		
<p>継続教育の臨床現場で自律した看護師というのはキーワードになっているので、臨床判断能力や生活を見る視点など基礎教育でどのように育成するか期待している。</p>		

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>新カリキュラムにて見直しを行った「自律した看護師」の育成という事を明確化した。学校の運営方針は『那覇看護専門学校事業計画』に明文化している。重点目標・事業計画を提示し、前期には中間評価を行い進捗状況の確認と後期に向けての取り組みの見直し及び確認を行っている。『魅力ある選ばれる学校』となるよう、積極的に情報発信し、透明性・客観性を確保し学校の質保障・向上を図っていく。</p> <p>本校は、教職員会議の場が意思決定の場であり、会議規程を定め、定例会議等を開催し、議事録は開催ごとに作成している。規則・規程等の改正が必要であれば 管理者会議を経て学校運営委員会等で審議し改正していく。教職員の研修計画を取り入れ、自己研鑽の機会とし資質向上を図っている。また、人材確保については、ホームページやナースセンター及びハローワーク等で採用広報を行っている。</p> <p>学生の学びを止めないための方策として「新たな学校生活のためのガイドブック」「臨地実習における感染症対策ガイドライン」を作成し学生や教職員、実習施設の方々等が共通理解し活用できるようにしている。</p>	<p>安定した対面授業や遠隔授業が行えるような体制づくりと環境整備を今後も継続して行う</p> <p>情報通信技術（ICT）を安全に取り扱うための知識や態度を養うための情報リテラシーについてさらに強化していく必要がある。</p> <p>電子テキストを採用しており、学内の通信環境の強化、サポート体制の強化PC等のアップデートを今後も継続的に行う。更なるPCサポート体制の強化、教職員 ICT スキルの向上を図り電子黒板、電子カルテのスムーズな活用、学務システムの見直しを行い、より活用しやすく円滑に管理できるよう検討を進める。</p>	<p>学務システムを取り入れ教務事務による効率的な運用ができています。</p> <p>情報管理システムを構築し、学生へもタイムリーな情報提供ができるよう環境整備をしている。</p> <p>コロナ禍において学生の学びを止めないための取り組みとして「新たな学校生活のためのガイドブック」「臨地実習における感染症対策ガイドライン」を基に学生や教職員、実習施設の方々等が共通理解できるようにしている。</p> <p>令和4年度は対面授業を基本に行うこととし、感染症に罹患した学生へはオンラインによる遠隔授業を組み入れた授業展開方法を行った。</p> <p>学生への情報発信をリアルタイムに実施できるよう、セキュリティ面を考慮し安全かつ迅速に情報を発信・共有するツールとして Google work space を導入し、円滑に学校運営を行っている。</p> <p>2022年度は新カリキュラム対応の学生と、現行カリキュラムの学生が学ぶ状況となるため、学生が混乱しないよう新年度には学生へオリエンテーションを行い周知できるようにした。</p> <p>本校創立 50 周年にあたり記念誌の発行および学生主体の 50 周年記念イベントを行うことができた。</p> <p>機材・環境が整えることが困難な学生に対する対応できるように機材（タブレット）の貸出を行っている。</p>
学校関係者評価委員の意見		
意見・提言など特になく妥当であると思われる。		

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>教育課程の編成方針、実施方針、職業教育に関する方針を明確に定め明文化している。又、教育到達レベルも明示しており、理念に適合している。</p> <p>看護師免許取得の意義を伝え、1年次から3年計画のもと看護師国家試験の支援体制を整えている。</p> <p>教育課程については履修要綱(シラバス)で明確にし、講義、演習、校内実習においては協同学習やシミュレーション、校内実習にはティーチングアシスタント(TA)の教育参加を行うなど工夫している。</p> <p>教育課程評価については、在校生による評価を行い課題については改善策を講じて取り組んでいる。キャリア教育評価として卒業生が里帰りで「看護師の臨床ラダー」を参考にアンケートの実施を行った。今後、計画的な評価を行うために、評価時期や評価方法を明確化していくことが必要である。</p> <p>成績評価の基準について学則(学生便覧)に規定し、かつ学生に明示している。又、入学前の履修、他の教育機関の履修について学則に明記しており、単位認定会議にて適切に運用している</p> <p>看護師資格取得の意義、目標、取得までの取り組み内容を明確にし、資格取得に向けて国試対策ゼミや、業者模擬試験等計画的に実施し、指導体制についてもチューター制を取り入れ指導体制を整えている。</p> <p>看護師国試不合格者に対して、在校生同様に模擬試験を受けさせるなど学習応援プロジェクトが積極的に連携し指導体制を整えている。</p> <p>教員の確保については、指定規則に沿った人材を採用し、計画的に専任教員養成講習会を受講できるよう支援している。教員の組織体制は規定に沿って整備している。教員の資質向上への取り組みについては、年度初めに年間の研修計画を立て、研修に積極的に参加している。</p>	<p>キャリア教育評価として卒業生の実態把握を行うために評価時期や評価方法等を経年的に立案していく。</p>	<p>キャリア教育については、事業計画で明記しており、在学中の経験記録をポートフォリオとして整理し、キャリアデザインの講話やストレスマネジメントの講演などを行っている。</p> <p>領域間、又は領域を超えて連携・協力体制を構築している。新カリキュラムに伴う新たな授業内容、教育方法について、会議を設け協議し取り組んでいる。</p>
学校関係者評価委員の意見		
卒業生と就職先等の意見徴収など具体的な計画を立案し、いつまでに何をどうするか企画するとよいと思われるので期待する		

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職率 就職率100%を目標に設定している。事務部で就職先を把握しデータ化している。更に就職セミナーは毎年1回、県内の病院を招き、校内で実施している。関連する企業（マイナビ・就職ナビ）を活用し、就職支援をしている。</p> <p>資格・免許の取得率 看護師資格取得について、100%を目標設定し、1年生から3か年計画のもと国家試験対策を実施している。毎年、合格実績を学校案内に表示し、全国の合格率ともに比較している。又、指導方法と結果を分析し指導方法を検討している。</p> <p>卒業生の社会的評価 卒後の実態を調査で把握することは十分にできていないため、今後は実態把握ができるよう具体的な計画を立案していくことが課題である。卒業生の研究業績については、学会発表等、学会誌で確認し把握するよう努めている。</p>	<p>卒業生の社会的評価について、卒後の実態を調査で把握することは十分にできていないため、今後は実態把握ができるよう継年的な計画を立案していく。</p>	
学校関係者評価委員の意見		
卒業生の社会的評価の一つとして、コロナ禍でも辞めずに継続して働いていることも評価になるのではないか、具体的に把握できるようするとよい。		

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生への就職等に関しては、学年担当教員と就職担当事務職員は連携しており、学生の就職活動の状況は学内で共有している。学生の学業継続の相談に関しては、各学年チーム担当教員や教務部長が面談、必要時、学校長、保護者も交えて面談を実施している。また、心理カウンセラーの活用の促がしや、必要時、相談医を紹介している</p> <p>学生の経済面に対する支援として、困窮している学生には各奨学金の紹介や、個別相談に応じている。大規模災害時及び家計急変時等に対する支援制度は整備している。</p> <p>学生の健康管理では、学校健康診断、抗体価検査、予防接種計画を定め、年1回の学校健診を行い2次検診が必要な学生には随時指導を行っている。健康面で問題がある場合には、担当教員との連携を行って支援している。課外活動の支援は、サークル担当窓口の教員を配置し予算やサークル活動に関しての相談を行っている。</p> <p>保護者に対して、入学式後に学校説明会を開催し、本校の教育理念・目的・目標及び教育課程内容の説明を行っている。また、後援会役員会及び総会を通して学校の教育活動状況や学校の支援体制について説明し周知を図っている。</p> <p>卒業生の支援として、同窓会が結成されており計画的に総会や特別講演を開催している。卒後5ヶ月と1年目に「里帰り」を開催している。社会人経験者の入学に際し、入学前の履修科目に対して、学則に従って単位認定をしている。</p>		<p>学生の就職等進路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職・進学の情報提供や個別相談を行っている。 ・県外就職の卒業生に対し、就職先訪問を実施。 ・就職試験や履歴書・小論文の書き方、面接時マナー等の支援を行っている。 <p>学生相談の体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の教員が相談窓口として学生を支援している。 ・学生が相談しやすいように男性・女性のカウンセラーを配置している。また、専門医による治療が必要な学生に対しては、相談医リストを提示し、受診できる支援体制を整えている。 <p>学生生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的支援制度の情報提供を十分行っている。 日本学生支援機構・沖縄県看護師等奨学金資金教育訓練給付制度・専修学校奨学金給付事業他 ・学生の健康管理に関して、「わたしの健康ノート」を活用し、学校健診、抗体価検査、ワクチン接種状況が管理できるよう指導している。 ・「新たな学校生活のためのガイドブック」を作成し、新型コロナウイルス感染対策の教育を行っている。 <p>保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生会が発行している「那覇看だより」で学生生活の情報提供を行っている。また学校HPも随時更新し情報を発信している。 <p>卒業生・社会人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒後は、5ヶ月と1年目に「里帰り」を開催している。卒業後の研究活動の支援として図書館を開放し、個別での相談も行っている
学校関係者評価委員の意見		
<p>コロナ禍の状況下で、文部科学省より、緊急支援給付金が出ていると思いますが活用しているのか等、授業料免除など具体的に支援が届いているのか、学校が補助金をどのように運営しているのか等、評価しやすい指標が出ると良いのではないかと。</p>		

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・整備等に関しては、看護師養成所の運営ガイドラインに基づき機械器具、標本、模型及び図書を十分に整備している。また、法定点検や日常点検を定期的に行い必要に応じて部品の取替や修繕を行っている。</p> <p>学外学習に関して、臨地実習について教育課程上の位置づけを明確にし、臨地実習要項を作成し適切に運用している。実習施設との臨地実習協議会を開催し、連携を密にしている。また年度末にはユニフィケーション会議を開催し協同学習や現場との意見交換を行っている。臨地実習の教育効果について、目標評価スケールステップアップスケールの活用で基礎的能力・成長過程の評価を確認している。</p> <p>入学式・宣誓式・卒業式やオープンキャンパスは、学生会を中心に委員会を設立し教職員と共に参画している。また、卒業生・保護者・実習施設等へ学校行事の案内を積極的に行っている</p> <p>学校の防災・安全管理に関して、学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備している。施設・建物・設備の耐震化を確認している。消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき適切に対応している。備品の転倒防止など安全管理している。学内における安全管理体制を整備し、適切に運用している。実習中の災害発生時の学生の安全確保について、マニュアルを作成し臨地実習要項に載せ、学生への説明、実習施設への説明を実施している。</p>	<p>新教育課程（カリキュラム）施行となり、デジタルテキスト導入に伴う授業やオンライン授業等がトラブルなく進められるよう、引き続き教育環境を整えていく。</p>	<p>模擬負傷者役を通して防災意識、安全教育 災害看護の演習の一環として、那覇空港航空機事故防災訓練及び那覇市防災訓練へ学生は模擬負傷者役で3年ぶりに参加している。</p> <p>ステップアップスケールを用いて基礎的能力の評価 臨地実習の教育効果については、各領域の目標評価スケール及びステップアップスケールを用いて基礎的能力の評価・成長過程の評価を確認している</p>
学校関係者評価委員の意見		
意見、提言など特になく妥当と思われる		

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集活動に関しては、生徒向けのガイダンスや高校の進路指導教員に対する学校説明会の開催、保護者への学校説明会等、積極的に情報提供に取り組んでいる。また、パンフレットやホームページでの学校紹介にも力を入れている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策を講じながら学生協力の下、対面型のオープンキャンパスを実施することができた。</p> <p>入学選考に関しては、入学選考基準や方法について入試規程に定め運用している。少子化の影響により受験者数が減少していく中、受験者数・辞退者数・受験倍率・合格率を管理し、どのように学生募集に活かしていくかが課題である。</p> <p>学納金に関しては、県内他校の水準を把握し、経費内容に対応して学納金を算定している</p>	<p>合格率・辞退率などの現況を示すデータから数年分の分析を行い入学選考に活かしていく。指定校については分析データより検討していく。</p> <p>希望する高校と相談の上、各校個別のガイダンスの実施方法を構築する。</p> <p>学生募集の方法については、パンフレット、ホームページでの情報提供の他に SNS を使った学校案内も検討し、情報提供の幅を広げる。</p>	<p>高校の教員に対する学校説明会を実施し、本校の教育の特徴等を説明している。</p> <p>入学希望者・保護者・高校の教員等一般向けの学校案内パンフレットを作成して広報活動に努めている。</p> <p>コロナ禍において感染症対策を講じながらに参加人数制限の下、対面型のオープンキャンパスを開催した。</p>
<p>学校関係者評価委員の意見</p>		
<p>高校生だけではなく、学び直しの社会人へも看護を道をアピールする必要がある。</p>		

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>安定した財務状況である。中長期的にみても学校の財務基盤は安定しており、適切に会計監査も受けている。業務は法令等に従い適正に実施されており、事業報告書は本校の状況を正しく示している。監査法人による定期監査を実施し指導を受けている。</p> <p>財務情報はホーム公開体制の環境も整い情報公開している。</p> <p>予算規定が整備されていないので課題としている。</p> <p>特にコスト管理においては、支出状況を把握し、項目別にコスト管理を行うよう努力しているが、省エネ対策も含めて電力使用について有効な方策を検討していく事が今後、更に必要である。</p>	<p>予算規定については法人全体で検討することとされていたが、法人全体での整備に時間を要するため学内において内部規程で整備した。</p> <p>更に、省エネ対策も含めて電力使用について有効な方策を業者から提案いただき有効な方策については中期計画に盛り込んでいく。</p>	<p>県から学校運営費の補助を受けており、財務管理においても県の要綱に従い管理、運営を行っている。</p>
学校関係者評価委員の意見		
意見、提言は特になく妥当と思われる		

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令の設置基準に基づき学校を運営し届け出ている。運営に必要な規則・規定等は、整備し適切に運用しており、個人情報保護に関することや学務システムおよびサイトに関しても、適切に運用している。ハラスメント等の防止規定は作成されているが、具体的な対応マニュアル策定はまだである。</p> <p>学生に対しては、意見箱を設置し、教職員のコンプライアンスに関する窓口として顧問弁護士が設置されている。</p> <p>個人情報保護に関する取り扱い・規定を定め、適切に運用している。学生へは個人情報保護・管理、SNSの取り扱い、通信機器などのマナーなどについては、学校生活や実習における教育指導や特別講義を通して、周知している。</p> <p>ICT 活用の拡大に伴い、遠隔授業を受講する際の誓約書や情報の取り扱いマニュアル作成を行い、対応している。</p> <p>学校関係者評価結果は報告書にとりまとめ、学校関係者評価委員会の意見も合わせてホームページに掲載している。</p>		
<p>学校関係者評価委員の意見</p>		
<p>施設内では、ハラスメント委員会があり、第三者的な方に関わってもらうということが実際なのですが、ハラスメントの種類がいくつかあると思うので、それぞれのハラスメントにどのように対応していくかなど、検討することが必要である。</p>		

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>実習施設との連携にも力を入れ、ティーチングアシスタント（T・A）の活用を行い、臨地実習施設と学校の教育連携推進会議（ユニフィケーション会議）を開催し、講師のキャリアアップのために認定書を交付している。就職指導に関しては、県内の実習病院を中心に就職説明会を行っている。実習病院や各専門学校、医療系大学、沖縄県と広く連携しながら運営ができています。</p> <p>ボランティア活動など社会活動については、コロナ禍であったが、新型コロナウイルス感染症対策について、国や県のガイドラインに沿って、学生会活動、委員会活動へつなげ、学校全体でできることから取り組むことができた。</p> <p>今後の中長期的な事業計画として地域共生社会（SDGs）への活動を明記し、身近なことから勉強会や研修会を企画し取り組むことができた。</p>		<p>『認定書交付』</p> <p>学校と実習施設との連携として教育連携推進会議（ユニフィケーション会議）を開催し、技術教育に携わった方、講義を行った方へキャリアアップの為の成果として認定書を交付している。</p> <p>教職員の社会活動について</p> <p>教職員研修として SDGS に関する研修会を開催することができた。さらに、那覇北ロータリークラブさんの協力の下、学生へも SDGS に関連したフォーラムを開催することができた。</p> <p>学生会活動（ボランティア活動）</p> <p>ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励し、学生の活動実績を評価し、卒業時に表彰している。</p> <p>・ボランティア活動を行った学生に対し、SDGs パートにて自己管理ができるようにしている。</p>
学校関係者評価委員の意見		
意見、提言は特になく妥当と思われる		

4 令和4年度重点目標達成についての自己評価

令和4年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1 安定した学校運営</p> <p>2 教育課程の円滑な運営</p> <p>3 教職員の資質の向上</p> <p>4 教育環境の整備</p>	<p>1. 安定した学校運営 教育目的・目標の達成に向けて組織体制・財政基盤の安定化については、均衡のとれた財政管理に努め、支出については適切な節減に努めることができた。 年度末に学校運営全般の自己点検・自己評価を実施し事業の成果状況と課題を明らかにし、結果を公表することができた。</p> <p>2. 教育課程の円滑な運営 外来講師の確保定着については問題なく行えた。長引くコロナ下ではあるが、実習施設のご協力の下、学生の学びの保証ができるよう、学生は現場の状況に合わせた臨地実習を実施することができた。 看護職に必要な自己教育力、社会人・組織人としての基礎的力の育成については、「step up スケール 看護師として必要な基礎力」を継続的に活用し学生自身で自己評価を行い、自己成長を確認することができた。実習指導者とのユニフォーメーション会議にオンライン会議とした。技術教育については実施可能な時期に関わって頂くことはできた。14期生は新カリキュラム対応で実施することができた。</p> <p>3. 教職員の資質の向上 年度初めに計画していたオンライン研修会を受講することができた。新任教員研修会も他校の新任教員も参加し実施することができた。キャリアラダーを活用した目標管理に基づく評価面接を年2回(中間・年度末)実施することができた。</p> <p>4. 教育環境の整備 運営ガイドラインに基づき機械器具、模型や図書を十分に整備し、図書室については20時まで開放し学生が学習しやすいように体制を整えることができている。施設整備に関しては、法定点検や日常点検を定期的に行っている。駐車場の整備も行うことができた。花壇の美化については時期により手入れを行っているが、十分には行き届いていない。感染予防策として学校の玄関前に非接触型サーモグラフィを設置し学生、教職員、外部の来校者等の体温管理が定着している。「本校の新たな学校生活様式」ガイドラインに基づき予防策を強化している。</p>	<p>・安定した対面授業が行えるよう環境整備を継続して行っていく事。</p> <p>・令和4年度は新カリキュラム開始年度となり、新カリキュラム及び現行カリキュラムによる学校運営を行うため、スムーズな学校運営、選ばれる学校をめざし、教職員協力し令和4年度は混乱なく実施することができた。</p>

令和4年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>5 学生支援の強化</p> <p>6 入学生・卒業生への支援</p> <p>7 広報活動</p> <p>8 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換</p> <p>9 後援会及び同窓会活動の支援</p>	<p>5. 学生支援の強化 学生自らがセルフチェックできるよう「私の健康ノート」に毎日登校前、昼食前、下校時の体温測定を行い記載できるようにした。経済的支援として各奨学金の紹介や個別相談に対応することができた。 ②社会人・組織人としての基礎的能力、就職・進学等キャリア発達を支援する。③国試対策として3年間の支援計画の下、国家試験合格100%をめざし、教員及び学生の国試対策委員会を中心にかかわることができ、本年度は国家試験（ ）%の合格率であった</p> <p>6. 入学生・卒業生への支援 入学前支援として2回シリーズでプレスクールを実施することができた。卒業後支援として卒後5か月目と卒後1年目に里帰りを対面で実施することができた。</p> <p>7. 広報活動 日頃の学校生活等について学校ホームページで紹介することができた。学校説明会はオンライン及び対面によるハイブリット型で実施した。学校祭はオープンキャンパスの縮小型で人数制限下で学生会の協力の下、実施することができた。</p> <p>8. 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換 新カリキュラムの「地域・在宅看護論」の中で学生が地域の暮らしと健康との関連でフィールドワークを行い、交流を持てたことは成果である。 学生のボランティア活動は地域の感染状況や参加可能な状況を判断し参加することができた。学校見学会の申し出については個別に対応することができた。 沖縄県看護教育協議会との情報交換については校長役員会や再教育研修会、領域会議等を通して情報交換はできている。</p> <p>9. 後援会及び同窓会活動の支援 後援会及び同窓会活動がさらに活発に行えるよう事務的支援を行った。 創立50周年記念誌への寄稿文の協力や同窓会から壁掛け時計の記念品贈呈があった。</p>	